

令和4年9月26日

保護者様

丹波篠山市立西紀小学校
校長 高森 俊広

丹波篠山市立西紀小学校 学習や生活に関する学力向上プラン

丹波篠山市学力状況調査 {5年生(国・算)} 及び丹波篠山市生活習慣状況調査 {3・4・5・6年生}、全国学力・学習状況調査 {6年生(国・算・理)} は、各教育委員会や各学校が児童の学力や学習状況を把握し、今後の学習指導や生活指導に役立てることを目的として実施されています。

本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であることや、学校における教育活動の一側面に過ぎないこと、学年・個人によって、得意・苦手な領域は異なっていることなどを踏まえつつ、全体的な調査結果をもとに授業などの改善、学力の向上、基本的な生活習慣の定着を図るため「学習や生活に関する学力向上プラン」を作成しています。

今年度の実施結果に基づき、下記の通り成果と課題をお知らせします。

1 西紀小学校児童のよいところ

○国語科(5・6年生)

2学年とも全国・県または市平均及び目標値と比べてほぼ同程度でした。特に「物語の様子を読み取る」「物語の登場人物の気持ちを考える・性格について具体的に想像する」ことができています。これは授業等において文章の読み取りに力を入れて取り組んだ成果だと考えています。また「漢字を正しく読む」こともよくできており、毎朝の学習タイム(モジュール)、授業、家庭学習において基礎学力の定着を図ってきた成果だと考えています。

○算数科(5・6年生)

学年によって傾向は異なりますが、「数と計算」「データ(変わり方・折れ線グラフなど、表やグラフ)の活用」の領域において、全国・県または市平均及び目標値と比べて上回っていました。これは、毎朝の学習タイム、家庭学習で授業の復習や計算ドリルを繰り返し行った成果だと考えています。

○理科(6年生)

全国・県と同様に、生命領域についての正答率が他領域(エネルギー・地球・粒子)より高く、特に「昆虫のつくり」「光の性質」など知識・理解を選択して答える問題や「水蒸気」について書く問題は、全国・県平均を上回っていました。これは、実物に触れるなど必要な知識や内容を少人数で指導している成果だと考えています。

○生活習慣・学習状況

ほぼすべての領域で肯定的な回答がほとんどで、全国・県や市平均と同程度でした。学年によってやや傾向は異なりますが、「社会的な規範意識(思いやり・発信力等)」「学級環境(学級の絆等)」等は、どの学年でも全国・県や市平均を上回っていました。また「今のクラスが好き」

と答えている児童も多くいました。これは、学級内において自分の考えを発信することができていることやおおむね良好な人間関係を築くことができ、家庭・地域・学校の中であたたかい愛情や信頼に包まれながら育っていると考えられます。

2 課題と今後の取組

○国語科

文章構成や書き方は理解していても、話し合いの文章や複数の資料を活用したり複数の条件を踏まえたりして、自分の考えを文章に書く問題の正答率が低い傾向がありました。今後、授業の中で、メモを取る活動も取り入れ、友だちの発言について意図までしっかりと聞き取る力を高める工夫をします。また、国語科以外の教科でも授業のまとめ等において、様々な条件を踏まえて自分の考えを「書く」活動をより多く取り入れ、家庭学習で日記に取り組む等、生活の中で自分の考えを「書く」機会を積極的に取り入れていきます。また引き続き音読の力の向上にも力を入れていきます。

○算数科

「数と計算」「図形」などの基礎的な問題、会話形式の問題を読み取って計算することや推察や定義をもとに考察する等発展的な問題が苦手な傾向にあります。今後も、朝のモジュール学習や家庭学習を活用して、既習の基礎的な公式や数量の問題に繰り返し取り組むことや、授業において実物の操作や体験を伴った活動を取り入れるとともに、ICTを積極的に活用することで、個に応じた、数量に関する理解力や発展的に考察する力を高めます。また、示されたプログラムで描くことのできる図形を選ぶなどプログラミング的思考に関する学習活動を取り入れたり、算数用語を使って友だち同士で教え合ったり全体に説明したりし、協働的に学ぶ活動をより多く取り入れます。

○理科

生き物のつくりや光の性質等、基本的な理解をもとに実験や観察で得た情報を様々な視点（他者の視点、複数の視点等）で分析して解釈し、自分の考えを記述する問題が苦手な傾向が見られます。そこで、授業において、今後も他教科と同様「西紀スタンダード」に基づいた「めあて」「ひとり学び（個別最適な学び）」「みんな学び（協働的な学び）」「まとめ・ふりかえり」の展開を大切にするとともに、一人ひとりが課題をしっかりと掴んで予想を立て、観察や結果をもとに自分の考えを持って表現できるような活動を取り入れていきます。

○生活習慣・学習状況

家庭生活では、学習や読書時間に比べデジタル機器を使ったゲームの時間が長い傾向があります。今後も、家庭と連携して、ルールを守り自分を高めるためのデジタル機器の有意義な使い方について指導していきます。また学校では、コロナ禍でもできる活動を工夫し、地域と連携した行事を継続するとともに、子ども達が主体的に取り組む児童会活動や学校行事の充実を図り、豊かな人間性を育てる教育活動をさらに進めていきます。さらに子ども達一人ひとりが互いの多様性を認め合いながら、自信を持ってそれぞれの良さを発揮できる学級・学校づくりを目指し、学校、家庭、地域が連携して子ども達を指導し、見守っていけるように取り組んでいきます。